

2025事務年度 データ分析・利活用プロジェクト 報告会・表彰について

総合政策局マクロ・データ分析監理官室

1. はじめに

金融庁では、幅広い職員がデータ分析に関心を高め、金融行政におけるデータ活用を推進できるよう、様々な取組を推進しています（データ分析・利活用プロジェクト）。その一環として、マクロ・データ分析監理官室では、データ分析の取組を推奨するため、庁内の分析事例を公募し、優れた分析を表彰する制度を設けています。

2025事務年度は、従来の計量経済学等を活用したデータ分析に加え、AIやデジタルツール等を活用した業務の効率化・高度化に資するデータ分析の取組も対象としました。

まず、庁内の各課室からデータ分析や業務改善の取組事例等を募集し、応募案件について、全職員がオンラインで参加できる発表会を開催しました。発表会では、各分析担当者・チームが取組内容や成果をプレゼンし、厳正な審査を経て、評価が高かった案件については、当庁幹部やアカデミア関係者（研究センター、参事、顧問等）に向けた最終発表を実施しました。

本稿では、最終発表の結果選定された長官賞、総括審議官（総審）賞、Chief Data Officer（CDO）賞それぞれの受賞案件の概要と、受賞者の声をインタビュー形式でご紹介します。また、これらの3つの賞以外の新人賞、技術賞、業務効率化・高度化賞についてもご紹介します。

（1）長官賞、総括審議官（総審）賞

及びChief Data Officer（CDO）賞

①長官賞

「地域銀行の住宅ローンに関する分析」（総合政策局リスク分析総括課マクロ・データ分析監理官室 松本光右 課長補佐）

ー 分析の概要やポイントについて教えてください。

共同データプラットフォームによる貸出明細の収集開始により、地域銀行については個人向け貸出についても債権単位での分析が可能になりました。国内の個人向け貸出の大宗を占める住宅ローンについては、足元で不動産価格の高騰や市場金利の上昇などによって市場環境が変化していることを踏まえて行った分析です。分析の結果、住宅ローンに関して以下の点が確認できました（参考資料1参照）。

- ・ 貸出期間の長期化や実行金額の高額化
- ・ 貸出期間の長い債権でデフォルト率が高くなっている状況
- ・ 洪水に対する気候関連リスク（物理的リスク）は、業態間のリスクの差異、異なる実行年度間のリスクの差異は小さい一方、地域間のリスクの差異は大きいこと

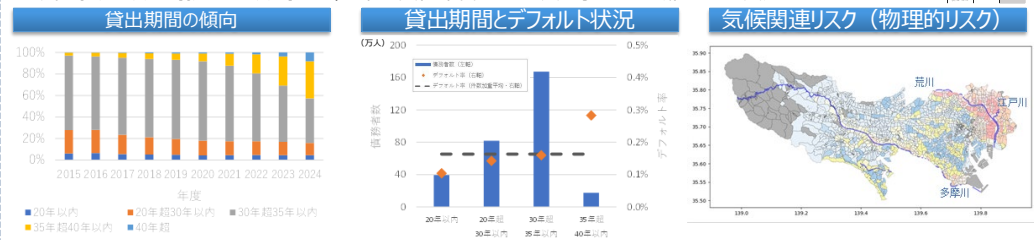
地域銀行の住宅ローンに関する分析

経緯

- ✓ 足元、不動産価格の高騰、市場金利の上昇など、住宅ローンを取り巻く環境が変化。
- ✓ 住宅ローンは個人向け貸出の大宗を占めており、その状況についてよりきめ細やかな実態把握が重要に。
- ✓ 共同データプラットフォームの運用開始により、個別債権単位での分析が可能に。
- ✓ 分析結果は以下の金融庁データ分析事例集（FSA Analytical Notes）で公表済。ほか各種講演、意見交換等にて発表。
 - ・ 2025年1月「地域銀行の住宅ローンに関する実態把握」・・・金利水準、実行金額等の実態について分析。
 - ・ 2025年10月「地方銀行の住宅ローンのデフォルト状況に関する分析」・・・債権属性とデフォルト状況の関連について分析。
 - ・ 2026年7月「地域銀行の住宅ローンにおける気候関連リスク分析の試行」・・・洪水による被害想定について分析。

結果

- ✓ **実態把握**：貸出期間の長期化、実行金額の高額化。
- ✓ **デフォルト状況**：貸出期間の長い債権（35年超）でデフォルト率高。
- ✓ **気候関連リスク（物理的リスク）**：業態間、実行年度による差異は小さく、地域間での差異が大きい。



本分析の価値

- ✓ 国内地域銀行住宅ローンの分析能力向上。
- ✓ 当庁データ分析プレゼンスの向上。

課題

- ✓ **実態把握・デフォルト状況**：時系列分析、デフォルト判定の精緻化。
- ✓ **気候関連リスク**：シナリオ分析、担保情報活用など分析の高度化。

ー 長官賞を受賞されたお気持ちを一言お願いします。

この度は栄誉ある長官賞をいただき大変光栄に存じます。この度受賞に至ったのは、偏にデータ分析の活用に資する高粒度なデータを維持・管理するための基盤の整備やデータの品質を守り高めていく日々の活動があつてこそであり、こうした活動に従事している全ての職員の皆様に心より感謝申し上げます。私自身も、今後とも長官賞受賞に恥じぬよう分析能力の向上に努めてまいります。

②総括審議官（総審）賞

「地域銀行による人材支援と企業の経営人材不足に関する分析」（総合政策局リスク分析総括課マクロ・データ分析監理官室 奥寺大介 係長）

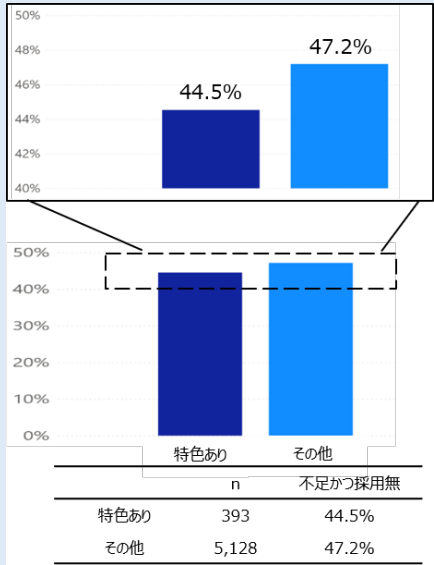
ー 分析の概要やポイントについて教えてください。

取引先企業の経営人材の確保を支援するための体制整備や取組が進んでいる地域銀行を推定し、そうした銀行をメインバンクとする企業において、

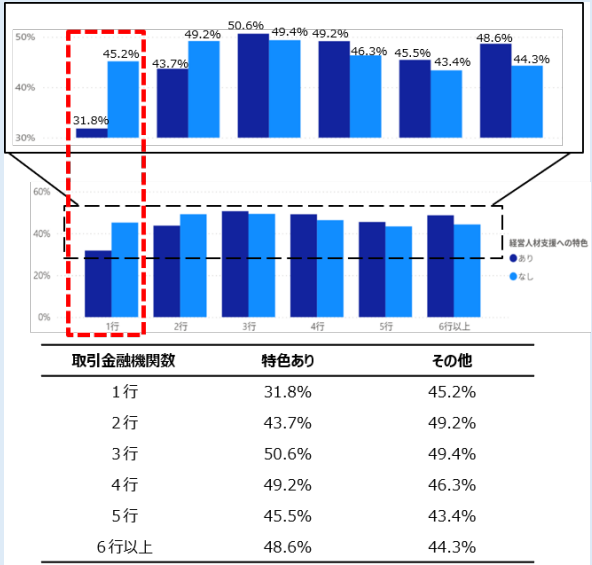
経営人材の充足状況にどのような差異がみられるかについて分析を行いました。

その結果、本分析で「経営人材支援に特色がみられる銀行」と推定（定義）した銀行をメインバンクとしている企業では、そうではない企業と比べて、経営人材に対する不足感が緩和されている傾向が確認されました。取引金融機関数別にみると、特に、1行取引の企業は、2行以上と取引がある企業と比べ、メインバンクが「経営人材支援に特色がみられる銀行」である場合、そうではない場合に対し、経営人材の不足感が緩和されている傾向の差が相対的に大きく、統計的にも有意な違いが確認されました（[参考資料 2]図表 1、2）。これらの結果から、地域銀行による人材支援の取組状況が、企業の経営人材へのアクセスのしやすさに関係している可能性が示唆されました。

(図表 1) 経営人材不足かつ採用無の企業の割合



(図表 2) 経営人材不足かつ採用無の企業の割合 (取引金融機関数別)



— 総審賞を受賞されたお気持ちを一言お願いします。

分析を進めるに当たり、実務面から貴重なご助言・ご協力をいただいた地域金融企画室及び人材マッチング推進室の皆さま、日頃から支えていただいたマクロ・データ分析監理官室の皆さま、そして庁外有識者の皆さまに、心より御礼申し上げます。今回の分析が、金融機関において法人向けソリューションや人材支援に関する体制を検討される際の一助となれば幸いです。今後も、人材支援や事業者支援をはじめとする金融機関の取組に着目し、その役割の定量的な把握に継続して取り組むとともに、金融仲介機能に対する理解を一層深めてまいります。

③ Chief Data Officer (CDO) 賞

「想定問答検索アプリの開発・活用について」
(総合政策局リスク分析総括課マクロ・データ分析監理官室 梶原耕太郎 調整官、川井大輔 課長補佐)

— 取組の概要を教えてください。

本件は、デジタルツールを活用した業務効率化の事例としてエントリーしたものです。昨年、L

ANサービスのGSS移行に伴って利用可能となったPower Platformを活用し、想定問答検索アプリを開発しました。開発に当たっては、行政文書管理の観点を含めた適切な運用方法を検討し、官房部門の関係課室と調整しながら開発を進めました。

本アプリでは、任意の単語や委員会開催日等の検索条件を入力することで、該当する想定問答を迅速に表示できます。これにより、過去の資料の検索の効率化を図るとともに今後作成する文書・資料の精度の向上を図ることを含め、業務の効率化・高度化を目指しています。

— CDO賞を受賞されたお気持ちを一言お願いします。

この度は、データ分析室のメンバーで開発した「想定問答検索アプリ」に対し、栄誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。データ分析室には、AIやデジタルツールに精通した人材が在籍しており、その知見を生かして本アプリを開発しました。多くの職員の皆様にご活用いただいていることに加え、このような評価をいただけたことを大変光栄に思います。今後も庁内のデジタルリテラシー向上とデジタル技術の活用推進に積極的に取り組んでまいります。

(2) その他の表彰

長官賞、総審賞及びCDO賞のほか、以下の賞がそれぞれのプロジェクトに対して授与されました。

表彰区分	プロジェクト名	受賞者
新人賞	「顧客本位の業務運営の実践状況を表す指標」と「持続可能なリテールビジネスの構築に繋がる指標」との相関に関する定量的分析	コンダクト企画室 野口検査官、山田検査官、 野田課長補佐、宮下課長補佐
	ORSAレポートの自然言語処理による解析	保険モニタリング室 小澤課長補佐、江頭係長、 福井係長、金高係員
	金利上昇局面における地域銀行の課題対応に関する実態調査	地域金融企画室 中村課長補佐、 渡邊課長補佐、田中係員、 厚地課長補佐、松尾係長、 岩島係長、小松係長、 湯目検査官
技術賞	地方銀行の貸出明細データ等とマクロ経済指標を用いた予兆分析の試行	マクロ・データ分析監理官室 松本課長補佐、青山係員、 本多係員
業務効率・高度化賞	金利変動に対するデフォルト率分析	マクロ・データ分析監理官室 久保情報分析専門官

2. おわりに

データ分析・利活用プロジェクトは、2025事務年度で開始から6年目を迎えました。これまで、金融行政上の課題の発見や解決にデータ分析を活かしたいという思いを持つ職員によって、多様な分析や取組が実施されてきました。その中には、レポートとして公表されたものや、業務の高度化・効率化に大きく貢献したものなど、具体的な成果につながった事例も多くみられます。こうした積み重ねを通じて、庁内のデータ活用や分析力は着実に向上しています。

マクロ・データ分析監理官室では、今後も職員によるデータ分析の取組を積極的に後押しし、知識の習得やスキル向上を支援していきます。こうした活動を通じて、職員全体のデータ分析力の一層の向上を図るとともに、金融行政のさらなる進化・深化に向けた取組を推進していきます。



受賞者紹介：写真前列左から順に
川井さん・梶原さん（CDO賞）、
松本さん（長官賞）、奥寺さん（総審賞）